

「森林・林業・木材利用」分野で活躍 できる現場技術者(エンジニア科)

岐阜県立森林文化アカデミー
菊地 與志也

岐阜県立森林文化アカデミーの専修教育部門では、森と木のクリエイター科と高卒程度以上が入学資格である森と木のエンジニア科があります。

今年度からエンジニア科も新しい体制・カリキュラムの改組・変更を行いましたので、その概要等についてご紹介いたします。

森・木・環境のコースと3つのコースを統合し、より幅広く森林に関する学習ができるようになりました。森林・林業、木材利用に関わる幅広い知識、技術を学んだ上で地域の森林管理を担える林業技術者、木材利用技術者の育成を行います。

その中において現場技術を身に付けるのみならず、環境、生態系に配慮した森林管理の能力、木工・建築関連産業、森林環境教育等の森林、林業を取り巻く様々な要素について知識を得ることで、新たな社会情勢に呼応した森林利用を考え、地域で働くことができる人材を輩出するものです。(簡単にいうと自立できる人材：建学の精神は変わらずといったところです。)

カリキュラムの特徴として、森林・林業・木材利用に関する専門基礎を集中的に学習します。安全管理の推進、情報処理、樹木と木材等に関する基本的な学びに加えて、林業政策分野、測樹、森林計画等の森林経理分野、伐採・搬出等の森林工学分野、森づくり実習・森林保護学等の造林分野、樹木生理学、造園学、造園土木、森林環境教育・木育、製材、特用林産、バイオマスエネルギー、建築、住環境など、専任教員による専門分野の科目(講義・実習)を配しております。今までは各コースに分かれていたことなどにより、とれない科目もありましたが、各専門分野を全般的に受講できるようになりました。また、就職に向けてインターンシップを重視、林業技術総合演習、森林利用総合演習(森林環境・木育系、木材建築系)を新たに設けました。

課題研究についてもインターンシップ等を通じた実践的な課題についても行えるようになり、資格としては、所定の科目単位をとることにより林業架線作業に関する講習・刈り払い機の安全教育・伐木等の特別教育・機械集材装置の特別教育の修了証、樹木医補(資格養成機関)の取得ができます(写真1)。



▲写真1 架線実習

エンジニア科では、現在、全体で47名在席しており、日々、勉学・実習等に励んでおります。「東日本大震災」へも学生有志によりボランティア活動に参画するとともに、ガレキである木材や倒木をマイ・チェーンソーで伐採するなど、本学の学生ならではの活動もみられました。

進路に関しては、就職率100%をモットーに担当教員の指導のもと、自分の夢に向かってチャレンジしております。昨年度も県内の森林組合、林業事業体、中部森林管理局、岐阜県、信州大学第三年次編入、ニュージーランド留学など、バラエティーにとんでいます。最近、林業女子という言葉が聞かれるようになりましたが、本学でもチェーンソーもこなす林業を志す元気な女子がおります(写真2)。

今年も何かと「就職が厳しい」と言われておりますが、インターンシップ、就職情報、本学の学生の就活等については、皆様のご支援とご協力をいただきたいと切に願っております。エ



▲写真2 間伐実習

ンジン科の定員は20名、今年度の推薦入試は10月15日、一般入試1が11月19日、一般入試2が1月28日となっています。県内からの入学者が多く農林高校以外にも地元の普通高校からの入学者もみられます。

また、現在、各教員が県内高校等を訪問しPRに努めており、8月21日にはオープンキャンパスを開催いたします。ご不明な点があれば、本学のホームページ(<http://www.forest.ac.jp/>)や事務局まで、お気軽にお問い合わせ下さい。

最後に私ごとですが、大学2年生の時に日本海中部地震で我が家も被災しました。

こんな時だからこそ、学ぶことが大切だと思います。ぜひ、森林と人との共生を目指して岐阜県立森林文化アカデミーで森林・林業・木材について学んでみませんか。

●詳しい内容が知りたい方は

TEL(0575)35-2525 森林文化アカデミー管理課 まで